

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立久里小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上では、全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]の結果において県平均正答率を上回る学年や昨年度との経年比較で向上が見られた学年があった。今後もベテランと中堅、若手が共に研鑽を重ね、組織的に日々の授業の質的改善及び授業力の向上に努めたい。 心の教育では、児童の自己肯定感を高める取組やより良い人間関係作りの取組を継続したい。また、キャリア教育で地域人材を活用したい。 健康・体づくりでは、「体を動かすことが好きではない」と回答した児童もいるため、引き続き運動・スポーツの楽しさを味わわせ、運動習慣を形成していく必要がある。 業務改善・教職員の働き方改革の推進では、年間を通して全職員が時間外在校等時間の上限を遵守し、「ONとOFF」を意識した働き方改革の雰囲気醸成されつつある。今後、教職員の異動があっても現在の取組を継続したい。
------------------	--

2 学校教育目標	<h2>豊かな心を持ち、夢の実現に向かって、自律的に活動する久里の子</h2> <p>～元気と笑顔があふれるカラフルな学校～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎基本の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善 ②他者とつながり、よりよい人間関係を構築する基盤となる素直で誠実な、温かい心の育成 ③他者を認め、支え合いながら達成感を味わうための体験活動と仲間づくりの推進 ④運動・スポーツの楽しさを味わい、運動習慣の形成に向けた体育授業及び体育的行事の推進 ⑤「ONとOFF」を意識した働き方の推進と「働きがいのある」業務遂行
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・校内研究の視点を全教職員で共有するとともに、全学級で研究授業を実施し、日々の授業改善の意識を高める。 ・授業で使った学習計画やワークシートをサーバーに保管し、いつでも誰でも利用可能な状態にする。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%であった。 ・PW・GW・CWを効果的に取り入れ、協働的な学習活動を行うことができた。 ・サーバーに保管された資料をアレンジして、それぞれの授業で活用することができていた。	A	・取組は年間通して行ってほしい。 ・小さな頃につまずいても嫌にならないように、学習が面白いと思えるような指導を続けてほしい。 ・分かっていない子をすくいあげるような手立てもあるといい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・研究部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者80%以上	・地域と連携した体験活動や学校行事等を工夫する。 ・平和集会や道徳に関するアンケートを実施する。 ・授業参観での道徳授業を年1回以上実施する。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者は87%。 ・米作りやボール遊び、花苗植え、稲作など、地域の方との活動を行い、豊かな心を育んだ。 ・年1回以上の道徳の授業参観で、道徳教育についての理解を深め、家庭との連携を図ることができた。	A	・立ち止まって挨拶をするなど、気持ちのよい挨拶をする児童が多かった。 ・地域の見守り隊の方と児童のコミュニケーションがとれている。 ・地域の見守り隊の方の緑のジャケットは「いつもの〇〇だ」と児童にとって安心感がある。	・特活部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	・毎月初めに「なかよしアンケート」、年2回Q-Uを実施し、分析・活用する。 ・生徒指導協議会及び気になる児童の情報共有を毎月1回行う。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員は94%。 ・なかよしアンケートの見直しや、Q-Uの分析を行い、指導に活用することができた。 ・生活の4本柱+時間を守るための取組や気になる事案については生徒指導協議会で情報共有し、必要な場合はケース会議で対応策について考えることができた。	A	・いじめの認知件数が多いが、現在のいじめの定義に照らし合わせると多くなって当然で、よく対応ができている。	・生活部
	◎児童が目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・仲間作り、縦割り班での異学年交流、全校での集会活動等を通して、より良い人間関係の構築を図る。 ・年間を通して児童一人一人の善い行いや頑張りを見取り、放送したり掲示したりすることで自己肯定感を高める。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は84%。 ・様々な集会や交流活動で、一人一人が目標をもって活動に参加する姿が見られた。また、上学年の児童にリーダーとしての意識が高まり、交流を通してよりよい人間関係の構築を図ることができた。	A	・小学生のうちに目標をもつことは大事。WBCを見て野球選手に憧れをもつように、身近な6年生を見て「あなりたい」と思っているのはよい。 ・今後も6年生が下級生にとって目標となっていくとよい。	・特活部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童100%の継続	・マラソン大会、なわとび大会等の体育的行事を設定し、それぞれの児童がめあてをもって運動に取り組めるようにする。 ・日常の学校生活での外遊びを推奨する。さらに、「スポーツチャレンジ」の取組を推奨することで、手軽な運動に進んで取り組めるようにする。 ・食に関する授業を実施する。 ・給食委員会が中心となり、食事の栄養やバランス等を考える取組を行う。 ・児童の実態を把握し、保健だよりや体験授業等を通して、食育の大切さを保護者へ知らせる。	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は67%。 ・運動会やマラソン大会、中休みのなわとびタイムなどコロナ禍の状況に応じた体育的行事のあり方を工夫して実施することができた。 ・「健康のためには食事が大切」という児童が95%。 ・給食委員会や保健委員会が中心となり、朝食や給食など食事の大切さについて啓発することができた。	A	・昼休みたくさんの子供たちが外に出て遊んでいる。 ・震災の時「外に出られないことは身体にとってよくなかった」との報道がなされていたのを覚えている。太陽の光は身体の成長のために必要で、外で遊ぶことは身体によい影響を与える。今後も推奨してほしい。 ・雨の日に送迎の車が多いので歩いて登校することも必要では。	・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員会議の時間の短縮。 ・定時退勤日の設定。(金曜日)	A	・時間外勤務については、90%以上の職員が月45時間以内を遵守できている。 ・職員会議は1時間以内で終了し、その後は各種事務の時間を確保することができた。 ・定時退勤日に定時に退勤することができた職員は70%程度であった。	A	・夜遅くまで学校に電気がついていることが少なくなった。 ・職員が帰しやすい雰囲気を作ることも必要。残業が減った先生が多いということは、その雰囲気を作ってあるということ。	・管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上では、全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、授業改善に努めた。その結果、佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]の結果において県平均正答率を上回る学年や昨年度との経年比較で向上が見られた学年があった。今後も組織的に日々の授業力向上に努め、学力向上を図りたい。 心の教育では、児童の自己肯定感を高める取組やより良い人間関係作りの取組を継続したい。また、今後は地域と連携した体験活動の充実に努めていきたい。 健康・体づくりでは、1日あたり1時間の外遊びをあまり行っていないと回答した児童もいるため、引き続き運動・スポーツの楽しさを味わわせながら、運動習慣を形成していく必要がある。 業務改善・教職員の働き方改革の推進では、年間を通して時間外在校等時間の上限を遵守する雰囲気が醸成されつつある。今後も業務の見直しを適宜行い、働き方改革を推進していきたい。
----------------	--